



目次

1. 巻頭言
2. 開放型登録医療機関紹介
3. 開放型病院登録医アンケートQ&A
4. リハビリテーション科紹介
5. 異動のお知らせ



国立病院機構の理念

私たち国立病院機構は、国民一人ひとりの健康と我が国の医療の向上のために、たゆまぬ意識改革を行い、健全な経営のもとに、患者の目線に立って懇切丁寧に医療を提供し、質の高い臨床研究、教育研修の推進につとめます。



宮崎東病院の基本理念

「主役は病める人」をモットーとして患者さんの人権を尊重し、良質かつ高水準の医療を提供します。

巻頭言 のどかな秋に想うこと

朝晩の涼しさが心地良く、あぜ道や庭先の彼岸花が目にとまる。のどかな秋の風景である。

一方、災害列島日本と言っていいほど、豪雨、洪水、竜巻、噴火などが多発している。台風18号に続く集中豪雨では、鬼怒川の堤防が決壊した。家が破壊され、車は流され、田畑も飲み込まれ、ヘリによる懸命の救助活動がカメラで映し出された。また竜巻、噴火などは、一般住民のスマートフォンが瞬時の迫力のある映像を捉えている。

最新のコンピューター・グラフィックスを駆使した気象解説も大変わかりやすい。人類は進化した科学技術により、自然現象の本体を見事に捉え、原因分析や対策の糧としているが、予測を超える脅威には到底追いつかない。

10月は年度の転換期である。とくに今年は、国勢調査やマイナンバー制度の通知がおこなわれる。5年毎の国勢調査であるが、今年は初めての本格的なネット調査であり、5,200万世帯の約2割の獲得を目指しているらしい。しかしながら、高齢者、認知症等の家庭には国勢調査員の足が頼りとなる。彼らの1軒1軒尋ね歩く姿には頭が下がる。マイナンバー制度は、行政の効率化と個人の利便性が主な目的とされ、1人1人に12桁のナンバーが振られる。個人情報保護が大前提であるが、

年金問題では情報管理の甘さが露呈された。利便性と安全性は表裏一体である。いかなるIT環境下にあっても、隙間を埋め、安全に仕上げるのは、やはり人の手が必要である。

宮崎東病院の新病棟建て替え工事はほぼ順調に進み、来年夏の完成を目指している。高層階の病室の窓から日向灘を眺め、飛行機の発着を楽しめるであろう。私たちは患者さんに最高の療養環境と最善の医療を提供できるように努力していきたい。



院長 比嘉 利信



平成 27 年度 開放型登録医療機関紹介

高木内科医院

院長 高木 重雄 先生

〒880-0035

宮崎市下北方常磐元 996-13

TEL 0985-22-5580 FAX 0985-22-5538

診療科：内科 循環器内科 消化器内科 放射線科



こんにちは、宮崎市下北方町で内科開業をしている高木と申します。

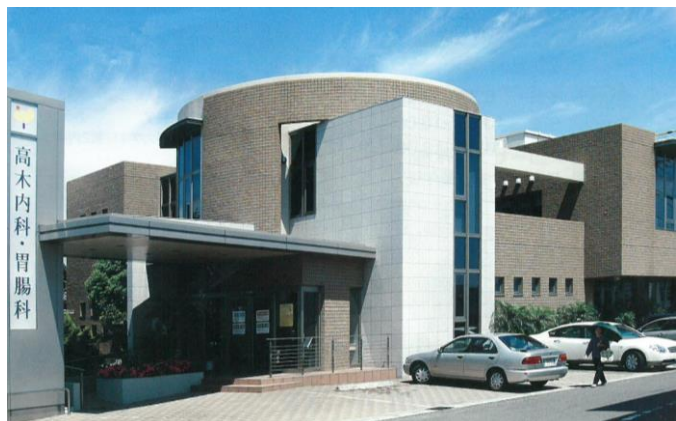
まずは、色々な呼吸器疾患症例を快くお引き受けいただき、東病院の先生方には何時も感謝しております。患者さんからも先生やスタッフの方々から良くして頂いたとお褒めの言葉を頂いております。この場を借りましてお礼申し上げます。

当院は、昭和 41 年に父が神宮東に開業し、14 年前に現在の場所に移転しました。父と共に内科一般の診療を行っております。

出身は久留米大学医学部で放射線科に入局し、佐世保共済病院、済生会日田病院、済生会大牟田病院胃腸科勤務を経て、地元宮崎に戻って参りました。勤務医時代は、放射線科一般業務並びに消化器疾患の診療に携わっておりました。現在は主に内科消化器診療一般、ホルター心電図、ホルター血圧計、睡眠時無呼吸の診断装置、脈波図を使用した動脈硬化度等の評価も行っております。在宅医療は現在行っておりませんがデイサービスやグループホーム等を行っております。

今年で卒後 24 年経ちましたが診断学や治療法の変遷には目をみはるものがあり、時々、診断や治療に関して孤独感を感じるケースがあります。そんな中、色々な症例の相談を快く引き受けてくださる基幹病院の存在は大きな心の支えとなっています。

これからもご迷惑をお掛けするとおもいますが宜しくお願い申し上げます。



※開放型登録医制度

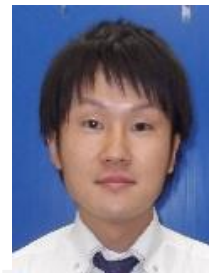
宮崎東病院では平成 16 年 9 月より開放型病床を設置しております。

開放型病床とは、かかりつけ医師（開業医）と宮崎東病院医師（主治医）とが連携して、入院診療を行うというものです。患者様にとっては、かかりつけ医師との関係がとぎれることがないため、入退院への不安が軽減されます。

現在 87 医療機関の先生方にご登録いただいております。

開放型病院登録医アンケート Q&A

開放型病院登録医を対象に、スムーズな病診連携体制を検討する目的でアンケートを実施しました。ご多忙の中、開放型病院登録医の先生方にはご協力いただきまして、この場を借りて感謝申し上げます。
アンケートの中で挙がった質問について、Q&Aにまとめました。



地域医療連携室
松田 純平

☆患者様の受け入れ体制について

- Q： 救急患者を当院へ紹介したい場合、連絡窓口や診療情報提供書をどうすればよいか。
A： 救急患者様のご紹介や入院相談については、外来担当医表に記載しております各担当診療医師へお電話にて直接ご相談ください。
診療情報提供書について、平日昼間は地域医療連携室までご連絡の上、FAXをお願いします。
夜間は事務当直が連絡を受け対応いたします。

- Q： 夜間の紹介対応をどうしたら良いか。
A： 夜間も当直医が勤務しております。まずはお電話にてご相談ください。



☆大型医療機器の共同利用について

- Q： 放射線治療は可能か。
A： 当院は放射線治療装置を保有しておりません。放射線治療が必要な場合は、患者様やご家族の意向に添いながら他院へ転院等調整しております。
- Q： PET 検査はどのような疾患が対象となるのか。
A： 「保険診療」としてPET 検査を受けることが可能なのは、下記の表の通りです。

病名	適用要件
てんかん	難治性部分てんかんで外科切除が必要とされる患者
虚血性心疾患	虚血性心疾患による心不全患者で、心筋組織のバイアピリティ診断が必要とされる患者。ただし、通常の心筋血流シンチグラフィで判定困難な場合に限る。
悪性腫瘍（早期胃癌を除く）	他の検査、画像診断により病期診断、転移・再発の診断が確定できない患者

- Q： MRI 検査は可能か。
A： 当院では心臓、乳房を除く全部位のMRI 検査を行う事ができます。平成27年2月より膝専用コイルを導入し、非常に高画質な画像を得る事が出来ています。また、膝関節以外の手関節や足関節にも使用できます。検査の目的や要望など、詳しい事は放射線科にお問い合わせください。当院の検査予約（MRI、CT、RI、PET）は待ち時間が少なく柔軟な対応を心掛けております。ご利用をお待ちしています。ご予約、ご不明な点等ございましたら放射線科（内線312）までお問い合わせください。

☆地域医療連携室について

- Q： 地域医療連携室ではどのような相談ができるのか。
A： 外来受診や療養相談・調整、医療連携、セカンドオピニオン外来受付、開放型病床利用受付、出張講座受付、その他各種ご相談に幅広く対応いたしております。お気軽にお問い合わせ下さい。

代表電話 0985-56-2311 FAX 0985-56-6733 地域医療連携室まで

リハビリテーション科紹介

理学療法士長 中筋 八千代

リハビリテーション科のスタッフは、リハビリテーション科医長の黒木浩史整形外科医を中心に理学療法士6名、作業療法士1名、言語聴覚士1名の8人体制で行っています。平成27年4月より言語聴覚士が勤務し、様々な疾病の摂食嚥下障害や言語障害のある患者に治療をしています。また、多職種とのチーム医療でVF検査など嚥下機能評価に基づいた摂食機能療法にも取り組んでいます。

リハビリテーション科の理念である「患者様に満足していただけるリハビリ医療を提供する」ために患者の要望に寄り添い個別に治療プログラムを立案し実施しています。主な対象疾患は次の通りです。



●運動器リハ

平成26年1月から整形外科医が常勤となりました。他院から紹介入院した事故・転倒等による骨折術後の患者を、退院に向けて関節可動改善や筋力強化を行い機能再獲得の援助をしています。また平成27年4月から脊柱手術が開始され術前評価や術後急性期からのリハビリを行っています。

●脳血管等リハ

脳血管疾患後遺症やパーキンソン病等の患者に姿勢・歩容改善、上肢機能改善に取り組んでいます。

●呼吸器リハ

呼吸器外科では肺葉切除術患者に術前にオリエンテーションや呼吸指導・排痰練習を行い、術後は呼吸リハの継続と同時に比較的壮年層が多いため運動耐容能を向上し社会復帰がスムーズにできるようにしています。呼吸器内科では慢性閉塞性呼吸器疾患(COPD)、気管支拡張症、間質性肺炎等の患者に呼吸筋群のストレッチ、リラクゼーション、胸郭可動性改善や腹式呼吸の指導などの呼吸リハだけでなく、高齢者には姿勢改善や下肢筋力強化等を行い日常生活動作の維持を図ります。退院時は呼吸指導等在宅での自己管理指導を行います。

●障害児(者)リハ

当院は神経難病拠点病院になっており、定期診察される患者には外来で機能維持リハビリだけでなく、生活全般へのアドバイスなども行っています。

療養介護サービスを提供する病棟の入院患者には、関節可動域訓練や筋力訓練で日常姿勢が快適になるように、また呼吸リハで少しでも呼吸が楽になるように援助しています。また気管切開して臥床状態の方も病棟と連携を取り車いすに移乗し機能訓練棟でリハビリを行いQOLの向上も図っています。

また、作業療法士が意志伝達装置関係の環境設定や患者の手の機能に合わせたスイッチなどの対応を行っています。

異動のお知らせ

この度、平成27年10月1日付で宮崎大学医学部内科学講座神経呼吸内分泌代謝学分野への異動を命ぜられ、9月30日を持ちまして宮崎東病院を離任することになりました。2年余りの在勤中は、関連病院の先生方に格別のご厚情を賜り、心より感謝いたしております。これからは、心機一転新たな気持ちで、いっそうの努力をしまいる所存です。今後とも倍旧のご厚誼を賜りますよう、お願い申し上げます。



呼吸器内科
柳 重久

編集後記

暑い夏が終わり、ようやくすずしい風を感じられる季節になりました。

なんといっても、食欲そして読書の秋♪美味しい果物を食べながら、秋の夜長に読書に耽るのは至福のひとつときです。少しはスポーツの秋も意識しつつ、この過ごしやすい季節を満喫したいものです。